

デジタルアーカイブ実務者検討会資料（自然科学博物館分野）

2017.10.10.

国立科学博物館 細矢

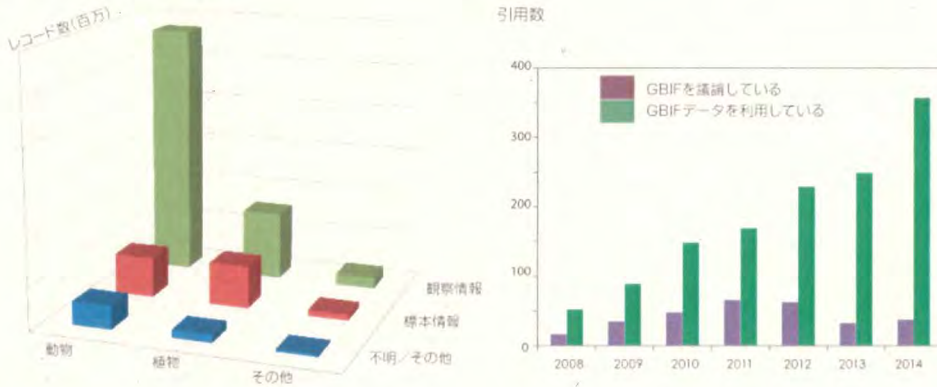
1. 自然科学系博物館データ：観察情報・標本情報・文献情報

生物多様性情報（何が、いつ、どこで、どのようなデータをもとに・・・）には国際標準形式として”Darwin Core”（200個近くのターム（データベースフィールド））がある。生物標本から化石、観察・測定などにも対応可能。

2. GBIF 地球規模生物多様性情報機構 Global Biodiversity Information Facility→世界規模のポータルを運営

(ア) 8億件を超える生物多様性情報を世界中から集積。無料で利用可能→探索・保全・政策決定に利用。

(イ) 日本からも400万件近いデータを提供（アジア最多。しかし、アジア地域からのデータは全体の2%程度）。



3. 日本ポータル S-Net（サイエンス・ミュージアムネット）

(ア) 国立科学博物館が運営する生物多様性情報の公開サイト。

(イ) 80以上の博物館・国公立研究機関・大学などからのデータを収集して提供（日本語での検索が可能）。

4. 課題

- (ア)活動の継続・推進・教育
- (イ)未デジタル化品・データのデジタル化
- (ウ)活用推進のための取り組み
- (エ)非生物(岩石・鉱物などの地球科学系、産業技術史系)データへの対応

